京 機 短 信　No.281, 2016.07.05
京都大学　京機会）　tel.& Fax. 075-383-3713
E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp
URL: http://www.keikikai.jp　編修責任者　久保愛三

2015 年度（2016.4 就職）の就職先一覧
機械専攻群，機械システム学コース，宇宙基礎コース

松野文俊(2016/06/18)

１．はじめに

機械系就職担当では，大学院の機械系 3 専攻（機械理工学専攻，マイクロエンジニアリング専攻，航空宇宙工学専攻）と，学部の物理工学科 2 コース（機械システム学コース，宇宙基礎工学コース）に所属する学生を，求人を希望する企業に対して「学校推薦」している．本稿では 2015 年度の就職結果についてご報告させていただく．まず，この報告の脱稿が非常に遅れたために掲載が大変遅くなったことは，全て小生の怠慢が原因であり，深くお詫び申し上げる．

さて，2015 年度の就職は，経団連の申し合わせにより活動開始時期が大きく変更された．学生の学修時間の確保，留学などの促進のため「日本再興戦略 - JAPAN in BACK」（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）に基づき，3 月 1 日以降広報活動開始，8 月 1 日以降採用選考活動開始と変更された．この変更に関する文部科学省からの正式な通達が就職担当に届いたのは 2015 年 3 月になってからであった．このような状況で，学生も大学も企業も大きく混乱した．（その反省もあってか，2016 年度はまた採用選考活動開始が 6 月 1 日と変更された.）京大機械系はこの申し合わせを尊重し，2015 年 8 月 1 日までは推薦状を発行しないこととした．

2015 年 2 月 12 日には就職説明会を開催し，学生には 3 月 1 日以降広報活動開始，8 月 1 日以降採用選考活動開始と伝えていた．しかし，大学によっては，事実上学校推薦を前倒しにしているような話も伝わってきた．また，経団連の申し合わせを順守する企業もあるが，ジョブマッチングと称して，8 月 1 日以前に事実上の採用選考活動を実施しているような企業も多数あった．8 月 1 日以降採用選考活動開始のつもりで活動していた学生が 8 月 1 日以前に企業訪問して，いきなり面接になって準備不足を露呈したなどという報告も受けた．企業側も，採用数を読めず苦労されたと思われ，8 月に入って早い段階で早々と採用活動を終了したと通知している企業もあれば，10 月以降でも採用活動しているので是非学生さんをとおっしゃっていた企業もあった．

表１　就職先一覧

就職先企業一覧		人数	学推	学部	修士	博士
1	三菱重工業㈱	10	10		10	
2	トヨタ自動車㈱	7	7		7	
3	川崎重工業㈱	7	7		7	
4	三菱電機㈱	6	5		5	1
5	IHI㈱	4	3		3	1
6	住友電気工業㈱	3	3		3	
7	㈱小松製作所	3	3		3	
8	㈱デンソー	3	3		3	
9	日産自動車㈱	3	3		3	
10	パナソニック㈱	3	3		3	
11	JFEスチール㈱	3	3		3	
12	㈱東海理化	3	3	1	2	
23	㈱京都製作所	3		1	2	
13	オムロン㈱	2	2		2	
14	オリンパス㈱	2	2		2	
15	㈱島津製作所	2	2		2	
16	マツダ㈱	2	2		2	
17	新日鉄住金ソリューションズ㈱	2	2		2	
18	㈱日立製作所	2	2		2	
19	㈱ブリヂストン	2	2		2	
20	㈱東芝	2	2		2	
21	富士通㈱	2	2		2	
22	日本航空㈱JAL	2			2	
24	ヤンマー㈱	1	1	1		
25	ギガフォトン㈱	1	1		1	
26	関西電力㈱	1	1		1	
27	九州電力㈱	1	1		1	
28	新日鐵住金㈱	1	1		1	
29	新日鉄住金エンジニアリング㈱	1	1		1	
30	日揮㈱	1	1		1	
31	コベルコ建機㈱	1	1		1	

２．就職の状況

このように、大混乱した 2015 年度の就職活動であったが，京機会諸氏をはじめとする皆様のおかげで，無事終了した．　就職先一覧（表 1）の通りである．2015 年度の学校推薦の比率は 77%と非常に高い．過去，　2007 年度：50%，2008　年度：56%，2009　年度：61%，2010　年度：58%，2011　年度：66%、2012　年：57%，2013 年度：61%とほぼ 50%　～　60%　を推移してきたが，2014 年度は 77% と例年になく高い割合となった．その傾向が 2015 年度も続いている．また，（表 2）に過去 8 年間の特に就職の多い企業の人数の推移を示した．

表１　就職先一覧（つづき）

	就職先企業一覧	人数	学推	学部	修士	博士
32	㈱安川電機	1	1		1	
33	㈱カネカ	1	1		1	
34	JFEエンジニアリング㈱	1	1		1	
35	㈱豊田自動織機	1	1		1	
36	㈱クボタ	1	1		1	
37	いすゞ自動車㈱	1	1		1	
38	京セラ㈱	1	1		1	
39	ヤマハ発動機㈱	1			1	
40	名古屋鉄道㈱	1			1	
41	(公法)鉄道総合技術研究所	1			1	
42	㈱キーエンス	1			1	
43	東海旅客鉄道㈱JR東海	1			1	
44	ボストンコンサルティンググループ(BCG)	1			1	
45	㈱富山村田製作所	1			1	
46	ソニー㈱	2			1	1
47	日立造船㈱	1			1	
48	予備校講師	1		1		
49	TechnoProducer㈱	1			1	
50	㈱三井住友銀行	1			1	
51	阪和興業㈱	1			1	
52	大島造船㈱	1			1	
53	GMOペイメントゲートウェイ㈱	1		1		
54	住友商事㈱	1		1		
55	伊藤忠商事	1		1		
56	全日本空輸㈱	1		1		
	就職者合計	112	86	8	101	3
	修士課程進学(京都大学)	86				
	博士課程進学(京都大学)	11				

学校推薦と自由応募の両方を扱っている会社は，場合によっては学生に混乱を招いていたので，機械系学生の採用に関しては，企業側に学校推薦か自由応募のどちらかを選択していただいた．学校推薦は１学生１社すなわち「専願」で他社に行かないことを保証しており，全ての自由応募の活動も止めることを前提としている．学校推薦の時期は自由応募に比べて遅いため，採否の決定も遅くなり万が一不合格になると学生に大きな不利益が生じる．そのため，扱いは自由応募とは異なるべきである．しかし，学校推薦は自由応募の１次審査がないのみで最終合格基準には違いがない，あるいは自由応募で内々定を出しておきながら学生を通じて推薦書を要求するなど問題のある扱いが見受けられた．また，先にも述べたが，学校推薦であってもジョブマッチングと称して事前に実質的な採用試験を行っている会社があり，学校推薦決定日とジョブマッチング合否結果判明時期が重なった場合には大きな混乱を招いた．

京大生といっても，最低限の準備は必要である．丸腰で行っては必ず痛い目にあう．学生がOB・OG諸氏とお話しさせていただき，アドバイスをいただく機会は大変貴重である．大学側では，2014年12月9日に機械系進路指導説明会を開催し，大学卒業あるいは大学院修了の後の進路を決めるにあたり，博士課程への進学を含め，進路決定の方針や対策を立てるために役立つ情報や考え方を説明した．また，これまでの 就職状況（就職先別人数や合否，過去のデータ等）について解説した．このように大学側でも指導はしているが，やはり身近なOB・OG諸氏の存在は絶大である．今後とも是非よろしくご指導いただきたい．

博士課程の学生に関しては，各社とも自由応募ということで就職担当としては推薦状を出すわけではないが，多くの学生が相談にやってきた．就職担当として面談いただいた企業を中心に学生にマッチしそうな企業の紹介や学生の希望する企業への橋渡しなどを行った．また，昨年度までの数年間の博士課程進学者の就職について情報を集めた結果，着実に就職を決めていることがわかった．本学修士課程から進学した博士学生の就職については，大半が大学や公的研究機関における職を得ており，全く心配のない結果が出ている．また，2015年度に面談させていただいたほとんどの会社の採用担当者の方々から博士の学生も積極的に採用するとのご意見をいただいている点も心強い．

表２　就職先経年推移

		2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	計
自動車	トヨタ	7	4	7	6	7	4	4	9	7	55
	ホンダ	0	5	0	1	0	1	1	1	3	12
	日産	3	4	3	0	1	1	0	1	1	14
自動車部品	デンソー	3	4	0	0	0	4	4	4	1	20
重工	三菱重工	10	6	4	7	3	7	7	8	5	57
	川崎重工	7	9	9	10	4	6	3	2	3	53
	IHI	4	4	6	5	2	0	0	0	2	23
電機	パナソニック	3	5	0	3	6	3	2	9	3	34
	三菱電機	6	6	6	6	6	4	5	1	3	43
	パナソニック電工	0	0	0	0	1	1	5	0	2	9
	日立製作所	2	0	1	2	3	1	4	1	1	15
計測	島津製作所	2	1	2	3	2	6	4	1	2	23
医療	オリンパス	2	2	1	0	1	3	3	1	0	13
鉄鋼・材料	（新日鉄住金、JFEスチール、東レ、旭化成）	4	7	3	6	11	8	6	10	10	65
電力		2	3	4	2	4	3	6	3	3	30
JR	（経産省、国交省、特許庁）	1	2	2	0	2	3	3	4	3	20
国家公務員		1	2	1	4	0	3	3	2	2	18

３．おわりに

就職担当として，幾つか雑感を述べさせていただく．機械系進路指導説明会では，小生から修士および学部の前年度までの就職データに基づき，会社別の就職状況，過去5年間の不合格情報，公務員試験の説明と，就職担当としての感想を述べた．自分が就職を希望する会社で自身が働くイメージを創るように指導した．これにより，インターネットや就職セミナーなどで得た上っ面の情報だけでなく，自分がどの部署でどんな仕事をしてどのように会社に貢献できるのかを考えるきっかけとなり，深く会社を考察し自分自身を見つめ直すことができるようになると考えている。また，近視眼的な非常に局所的な考え方やものの見方しかできず，将来を見据えて物事を判断するのはなかなか困難のようである．20年先とは言わないがもう少し将来の社会や経済の情況，その中でその会社がどうなっていくかも考えてみるようにもアドバイスした．また，身近にある製品のメーカやテレビで宣伝がなされている会社など以外は全く存在を知らない場合が多く，産業界や会社の仕組みなどが全く分かっていないように感じられた．結局，自分でもっと深く勉強し良く考え，自己のポテンシャルを高め，しっかりとした動機を持つことが重要である．

学校推薦で不採用になってきた学生の多くは上述した人間としての実力の欠如が原因である．特に，コミュニュケーション能力の不足や熱意・動機の希薄さという理由で不合格となる場合が多かった．ブランドのみを追っている（例えば，同じ学生がトヨタ，JR，SONYを志望する），自分がなぜ工学部になぜ機械系に来たのかを説明できない，機械の中で何を重点に勉強してきたか説明できない，研究の内容を簡潔に分かりやすく説明できない，仕事の中身をわかっていない，自分が会社で何ができそうなのか言えない，産業界・社会の仕組みがわかっていない，などが具体的な症状であり，これまでと変わっていない．

結局，学生がしっかりと広い意味での勉強をするとともに，これまでの勉強の過程や自分の研究テーマについてもっと深く考察し，はっきりとした動機を持ち，人間として自己を磨き，自信を持って就職に立ち向かってくれれば，自ずと結果が出るのではと思う．また，各研究室でも大所高所から学生の「人間としての総合力」について指導をしていただければと希望する．さらに，京機会の強力なバックアップは非常に貴重であり，今後とも宜しくご指導いただきたくお願い申し上げる次第である．

最後に，各研究室を訪問いただいたOB・OG の方々には仕事に忙しい中，また，研究・教育活動に支障のないようご配慮の上，学生の円滑な就職活動に尽力いただいたことに深く感謝申し上げる．なお，機械系の就職担当は原則として特定企

業の説明会のお世話や説明会を行うための会場提供は控えさせていただいているので，リクルーターの方々には CIII クラスタ玄関横のカフェテリアや B クラスタの食堂・レストランの利用を薦めする．

昨年度は大変お世話になり，感謝申し上げております．本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます．

京機 38 会の同期会

2016/6/25　学年幹事　中川　哲

去る 5 月 25，26 日に四国の松山で同期会を持ちました。

私たち昭和 38 年組は 38 会と称して隔年に場所を変えて集まりを持っています。卒業以来の５年毎の集まりがいつからか２年毎に変わり、幹事も関東、中部、関西と持ちまわって、今回初めて中国・四国が担当することになりました。

２５日は道後温泉すぐ横の大和屋本店に集合。遠方にも拘わらず４４名中１９名もの人が集まり、再会を喜び、青春時代を懐かしみました。松山へ来る前には一部の人が石鎚山登山、別子銅山の遺産見学を楽しみ、翌日は松山城、坂の上のミュージアムを訪ねましたので、充分に四国の面白さを満喫する旅になりました。解散後も別れ難く、碁会所へ飛び込んで３面も盤上の戦いを広げたのは、３回生の時の製図時間教育の賜物でしょうか。元気なオールドボーイの集まりです。

韓国の歴史を辿る旅　　(その9)

田中　庸彦（S51卒）

平成13年12月、今上天皇はお誕生日に際し、翌年の日韓ワールドカップを控えてお言葉を宣べられています。

> *日本と韓国との人々の間には，古くから深い交流があったことは，日本書紀などに詳しく記されています。・・・私自身としては，桓武天皇の生母が百済の武寧王の子孫であると，続日本紀に記されていることに，韓国とのゆかりを感じています。武寧王は日本との関係が深く，この時以来，日本に五経博士が代々招へいされるようになりました。また，武寧王の子，聖明王は，日本に仏教を伝えたことで知られております。*

ここに名前が出てくる武寧王が、この稿の主人公です。

（地図一）公州市内詳細図

昨晩は扶余のオンドル付きの部屋で正体もなく熟睡し、今朝目を覚ませば一面銀世界でありました。この四日間、霧、雨、晴、雪と天気は目まぐるしく変わり、冬の韓国旅行のために持ち込んだ準備品が今日はやっと役に立つ、と奇妙な喜びがふつふつとわき出てきました。しかし扶余を去るころには雪も止み、次の地公州への途上では、国立公州博物館、武寧王陵そして公山城に想いを馳せていました。

(写真一)国立公州博物館

最初に訪れた博物館は、百済時代の文化をテーマとしており、武寧王陵からの全ての出土品を展示する歴史文化空間であります。

展示品の中でもとりわけ有名なのは、武寧王金製冠飾、武寧王妃金製冠飾、武寧王陵石獣そして武寧王陵誌石で、すべて国宝です。

（写真二）武寧王陵石獣

この石獣は韓国で初めて発見されたもので、墓を守るために作られた架空の動物です。武寧王陵は盗掘されなかった稀有な例で、王陵の入り口に並べていた誌石は、墓の被葬者が間違いなく武寧王とその王妃であることを伝えるものです。三国時代の王陵の中で唯一、墓の主人が明らかになった陵で、百済王室の墓の構造が把握できる重要な遺跡であります。

(写真三)武寧王陵

この合葬陵の中には入れませんが、すぐ近くの模型展示館には、その内部の様子もわかるようになっています。最後に訪れたのが、百済を代表する古代の城郭である公山城です。４７５年に熊津（公州）

に遷都され、５３８年に泗沘（扶余）に都を遷すまでの６４年間、王都を守ってきました。

（写真四）公山城

さて、武寧王(生没年４６２年－５２３年、在位期間５０１年－５２３年)のことであります。日本では、仏像や仏典の日本伝来に尽力した、彼の息子聖明王のほうがよく知られているかもしれません。武寧王は驚くべきことに倭国で生まれています。日本書紀に、蓋鹵王の言葉として、

我が孕（はら）みし婦（おみな）、既に産月に当たれり。もし路にして産まば、ねがわくは一船に載せ、至らむ随（まにま）に何処なりと速く国に送らしめよ

と指示した、とあります。武寧王は、現在の佐賀県唐津市鎮西町加羅島で生まれました。武寧王陵から見つけ出された、王と妃の棺は日本（倭国）でしか生育しない高野槇が使われていること自体が、その生涯において倭国との結びつきが強かった証拠にもなります。また、武寧王陵から出土した銅鏡と同じ鋳型で鋳造された同型の鏡が、滋賀県野洲市の三上山の麓で見つかっています。

（写真五）武寧王

ここにもうひとりの人物がいます。謎の大王といわれ現日本皇室につながる、継体天皇（生没年４５０年－５３１年、在位期間５０７年－５３１年）で、その生没年、在位期間からわかるように武寧王とほぼ同時期を生きた人物です。和歌山県隅田（すだ）八幡神社所蔵の人物画像鏡に、

癸未（きび）の年八月、日十（をそ）大王の年、男弟（おと）王、意柴沙加（おしさか）宮に在（いま）す時、斯麻（しま）、長く奉（つか）えんと念（おも）い、開虫費直（かいちゅうのあたえ）・穢人今州利（えひといますり）二人の尊を遣して申す所なり。此の鏡を作る所なり。

とあります。男弟王とは継体天皇、斯麻（王）とは武寧王のことで、海を越えた両者の同盟関係の証と考えられます。後の世で、武寧王の子孫とされる高野新笠は、継体天皇の子孫となる光仁天皇に嫁ぐことになります。この両者の血筋は200有余年後結び付き、桓武天皇が生まれることを、彼らは知る由もありません。

今上天皇のお言葉は続き、

> *しかし，残念なことに，韓国との交流は，このような交流ばかりではありませんでした。・・・両国の人々が，それぞれの国が歩んできた道を，個々の出来事において正確に知ることに努め，個人個人として，互いの立場を理解していくことが大切と考えます。*

以下は、(S42)藤川　卓爾氏の筆になります。

「連載を終えるに当たって」

9回にわたって連載されてきた「韓国の歴史を辿る旅」シリーズもこれで終わりました。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」と言われていますが、歴史を辿る今回の旅によって少しでも賢者に近づけたなら幸いです。(その1)に書いたように吉田氏の「鉄から見た日本の古代史」がきっかけで実現した今回の旅ですが、京機会のご縁で中身がとても濃いものになりました。久保元会長と旧知の鄭先生に同行していただいたことにより期待を大幅に超える旅になりました。鄭先生は機械工学の名誉教授ですが歴史学の教授以上に歴史に詳しく、何処を訪れても事件と年代と人名がスラスラと出てくるのには驚きました。鄭先生の歴史観に触れて認識を新たにするところが少なからずありました。日本人観光客ならタクシーで行くところも在来線鉄道や高速バスを上手く利用でき、宿や食事も韓国らしい雰囲気を堪能しました。

「京機短信」での呼びかけで参加された浅野氏は京機会関東支部写真同好会の仲間、浅井氏は「ミニミニソウルの会」の仲間でした。田中氏は今回の旅で初めてお会いしましたが、それまでにも「京機短信」に寄稿されていました。皆さん歴史好きで、道中での会話を通じて蘊蓄の深さを感じました。今回の旅で、歴史は実際に現地を訪れることによってよりよく分かり、さらに知りたくなるものだと思いました。吉田氏との出会いの場となった「火力発電の歴史」シリーズはその後「歴史を学べば未来は拓ける」という題の本になりました。「歴史を学ぶ」ことによって「未来は拓ける」ことを祈ります。

（おわり）

かっぽ酒

檜原　勇多賀（37 年卒）

九州には『かっぽ酒』という豪快で粋な酒の飲み方がある。

かっぽ酒は、青竹の筒に酒を入れ、囲炉裏やたき火で燗をつけたもので、青竹の香りが移った酒は、昔は「二級酒が特級酒になる」といわれるほど、香りよく味を深める飲み方だ。
それをいただく盃もまた青竹を切って作ったもので、野趣を楽しむ宴席を盛り上げてくれる。

かっぽ酒は、注ぐときにカポカポという音をたてることが名の由来になっているが、音を立てるためには、節を抜くときにコツが必要で、一番上の節は穴を小さく開けるとよい音がするという。

もともとかっぽ酒は、山仕事の合間に、手近な青竹を切って、節を抜き、清水の水を入れてたき火にくべ、茶をわかして飲んだことに始まる。

やがて、酒を入れてかっぽ酒と呼ばれるようになるが、簡単に煮炊きしてすぐに食することが、後の「割烹（かっぽう）」の語源になったという説もある。

かっぽ酒は、青竹から出る竹の油が酒に溶け込むことで旨くなるため、古竹や一度使った竹は使用しない。（以上高千穂観光情報より）

この「かっぽ酒」を始めて飲んだのは昭和四十年頃長崎市坂本町の外人墓地の上に有った食事処で、なかなか粋な飲み方だと感心したものである。

そのあと、熊本県阿蘇内牧温泉の「草泊り」、鹿児島県妙見温泉の「雅叙苑」などでかっぽ酒を愉しんだ。「雅叙苑」のかっぽ酒の中身は焼酎であった。

バスツアーで福岡県山門郡瀬高町の清水山に行き、「竹屋茶屋」でかっぽ酒と青

竹の器を使った「竹屋御膳」を頂いた。

自宅で「かっぽ酒」を愉しみたいという向きには、楽天市場で「博多小女郎かっぽ酒」を売っている。ただ、中身は日本酒ではなく焼酎である。

（第８話　終わり）

原稿募集

世話人

「気儘爺さん斜視独言」シリーズを始めたく思います。世の中に対する愚痴、皮肉、崇高なる考え・・・、何でもいいですが、一寸刺戟があって、エスプリの効いたものをご寄稿ください。今の世の中に、若い人に、こんなこと、言ってみたかったんだー、と言う原稿を期待しています。

私は若いころ、年寄りの話を「なんで年寄りは、こんなことをグダグダ言うのだろう」、「今の世の中分かってないねー」とかの感じを持ちながら、「まあ、年寄りと喧嘩をしても始まらないので、おとなしく聞いておくか」なんて思いで聞いていました。そして私も歳を取って、そのようなグダグタと言う話を若い人にするようになってしまいました。面白いもので、かって自分が批判的であったその姿に自分が自動的になるのです。DNA の劣化、老化の本質である DNA 複製時の遺伝情報の欠除がそうさせるのかも知れませんが、contemporary な高周波情報に対しての感度がどんどん落ちて行くことに伴う鈍感さの進展、その結果として出てくる生の余裕のせいか、感じている情報が高周波成分にマスキングされなくなった分、今まで気づかなかった低周波情報を感じられることもあります。もしかしたら年寄りのグダグダ話の中には、このような低周波情報を若い人に伝える役割が、何億年滅びずに来た生命の奇跡としてあるのかもしれません。人類の将来、国の将来 etc. を考えた場合、それを決めるのは長周期の緩やかな変化で、長期的にはその振幅が大きくなるものです。このような低周波成分の情報をどれだけ感じられるかが大切なのですが、恐らく、高周波成分の情報に良く反応する人にはそれが難しいでしょう。人間は本質的に変化の勾配に対してしか感度が無い上に、一度に受け取れる情報の総量にも限界がありそうですから。

自分が年を取ってきたせいで、何事もすぐに斜めから見るようになり、ブツブツと呟くようになりました。「気儘爺さんの独り言」にも、上のような意味づけをし

て、原稿を募集したく思います。もちろん京機短信の基本掲載条件「他人の誹謗中傷、自己宣伝の記事はペケ」は生きています。また、投稿に年齢制限がある訳ではなく、若い人でもエスプリの効いた原稿は大歓迎です。掲載は、原稿次第、不定期、随時になると思います。
この説明では抽象的すぎてどんな原稿が希望されているかが分からないと思いますので、第 1 話は僭越ながら拙稿「愚民化」を投稿例として示します。

愚民化

【気儘爺さん斜視独言】

昭和 41 年卒　　久保愛三

　車で近郊の田園地帯を走っていたり、新幹線の窓から見ていると、畑の中にどんどん太陽光発電設備が立てられています。近頃その増加ぶりが特に目につきます。その多くは今まで農耕をしていた畑を潰してこのような設備を建設しているようです。建設には補助金がもらえて、自己負担はそれ程大きくないそうです。発電した電気は自分で必要として使うのではなく売られます。電力会社から購入する電力に比べて何倍もの値段で買ってもらえるので、自分が必要とする電力は既存の電力会社から購入し、太陽光発電した電力は売却するのです。そうするとその差額分、儲かります。額に汗し、毎日毎日、畑作りでしんどい思いをして働かなくても、寝ていて、ある程度安定した収入が得られるのです。人間は所詮、楽な方に走りますので、このような農地の転用が急速に進んでいるものと思われます。マスコミや地方政府、中央政府もサステイナブルエネルギーと言うはやり言葉への迎合、そしてその増強と言う現時点のグローバル対応策が民意を得られるとして、これに大きな税を投入しています。このことは、太陽光自家発電と言

う手段で、働かない国民が血税を食う事を奨励しているのです。長期的にこのことがどのような影響を日本に与えるかを考えてみると恐ろしいものがあります。

税の損失以上に重要なことは、日本人の美点であった勤勉さ、まじめさが消失し、グータラ人間ばかりが増えて行くことになることです。世界に冠たる日本人の美点が失われ、世界の並に、あるいは並以下になろうとしています。設置されるソーラーパネルは全て中国製で日本に利益をもたらすものではなく、また、発電設備を作るのにも技術立国日本の技術は必要でなく、低級技術で十分です。日本を支える技術を栄えさせる方向性は持っていません。畑地が無くなって、今までの労働から解放されたことにより生まれてきた余剰時間を、より生産的に使うことの出来る人間はどの程度いるでしょうか。人間の能力の分布状態から考えてそのような生産的思考をもって現状を変更する人間のパーセントは極々僅かでしょう。また一旦、発電設備用に提供された土地は農耕に適さなくなり、二度と元の豊かな畑には戻らないでしょう。そのうちに「生まれた土地は荒れ放題、右も左も真っ暗闇じゃございませんか」と言うことになります。この畑地が荒廃した状況、緑と清らかな水の無くなった状況は、人間の精神を荒廃させます。

江州の村の今から60年ぐらい前のことですが、「あの家のグータラは、まともに働かんし、どうしょうもないなー。食いはぐれせんよう、村会議員にでもしとくか」なんて話がされていたのを耳にしていました。今や、そういう類の人間が日本中で政治家になろうとし、倫理観は無く、金の亡者が国を食い物にするようになって行くのです。現在の議員や公務員の中にもこのような類の人間はかなりおり、お上の状況は下々に伝わって日本国全体の程度を悪化させています。また、そのような人間は人をたぶらかす言葉だけはうまいですよね。現在の太陽光発電設備繁茂の状態はそのような傾向を助長します。

太陽光発電は、農地を潰してはならず、自宅の屋根瓦から発電し、起こした電気は全て自分が使う。畑仕事は今まで以上に額に汗して精を出し、その収入と、太陽光発電での電気使用料金支出を減少させることにより、豊かな生活を導く、と言うように人の考えを変えさせねば、太陽光発電は日本国民を愚民化し、日本人の質を劣化させることになります。マスコミも政府も太陽光発電が人間の精神状態に与える影響を考え、現在の考え方を改める必要があるでしょう。

（おわり）

S43 年京機同期会の開催

　昨年は地震前の熊本・阿蘇の黒川温泉でしたが、ほとんどが退職者なので、本年度は５月２９日、３０日と日曜と月曜の平日を利用しての開催でした。

　幹事は関西地区の担当で、三田の神戸市フルーツフラワーパークホテルに宿泊、翌日は北神戸ゴルフ場と姫路城見学組にわかれて久しぶりの懇親を楽しみました。参加者は、宴会２５名、ゴルフ８名、姫路城見学１１名で、短い時間ながら、すぐにタイムスリップし、「俺！　おまえ！」の会話を楽しみました。
来年は関東地区にて開催予定です。

● 詳細はPDF版でご覧下さい。

１．未来投資に向けた官民対話（第５回）　平成28年4月12日

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/index.html

第四次産業革命・イノベーション

資料１：出席者名簿

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou1.pdf

資料２：橋本氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou2.pdf

資料３：関山氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou3.pdf

資料４：金丸氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou4.pdf

資料５：上野氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou5.pdf

資料６：加藤氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou6.pdf

資料７：五神氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou7.pdf

資料８：榊原氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou8.pdf

資料９：三村氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou9.pdf

資料１０：小林氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou10.pdf

２．産業構造審議会　製造産業分科会（第４回）　平成28年3月28日

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/004_haifu.html

製造業をめぐる現状と課題への対応

配布資料一覧

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_03.pdf

委員名簿ル

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_04.pdf

資料１　製造業をめぐる現状と課題への対応

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_01_00.pdf

３．“第４次産業革命”への備えを　日本経済研究センタ

－ＩＣＴ戦略と国家戦略・経営戦略の深い統合を
情報通信技術が変える経済社会（2016 年 3 月 23 日発表）
http://www.jcer.or.jp/policy/concept2050.html
本文　http://www.jcer.or.jp/policy/pdf/160323_policy1.pdf
2015 年２月に公表した「経済社会の革命的変化への岐路に立つ日本―技術進歩と向き合う改革への覚悟を―」に続き、研究会での議論を取りまとめた。ＩＣＴ（情報通信技術）を製品・サービスの開発・提供、競争力向上の中核としてフル活用するため、ＩＣＴ戦略と企業戦略、そしてＩＣＴ戦略と国家戦略を統合することが「第４次産業革命」を乗り切る上で不可欠だ。

４．グローバル・トレンド（未来洞察データ集）　　H28.3.30 中部経済産業局
http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/global_trends.html
「グローバル・トレンド（未来洞察データ集）」は、エネルギートレンド、資源トレンド、経済トレンド、業界動向（自動車市場、航空機市場）などについて、各機関が公表している予測データをとりまとめております。企業の皆様の時流に先んじた（環境変化を先取りする）経営戦略立案に幅広くご活用いただければ幸いです。
http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/data/global_trends_2016.pdf

５．Global Tech Trends 2016　　デロイトトーマツ
Innovating in the digital era
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html
テクノロジーに大きな変革をもたらす事象への理解を深めるため、デロイトでは毎年 Global Tech Trends を発行しております。今回で 7 回目となる Tech Trends 2016 は、今後 1 年半～ 2 年の間にビジネスに大きなインパクトを与えるだろう 8 つのトレンドに焦点をあて、また各トレンドが計画・設計・導入される段階において企業内統制の立場からサイバーリスクをどう捉えておくべきか考察しております。
Tech Trends 2016 日本語版
http://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/jp/Documents/technology/tsa/jp-tsa-tech-trends-2016.pdf
・IT 導入スピードの最適化とは
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#2
・実用段階に来た拡張現実とバーチャルリアリティ
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#3
・Internet of Things が価値を生むまで
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#4
・基幹システム再創造

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#5

・Autonomic platforms（自律型プラットフォーム）

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#6

・ブロックチェーン：特定の権威に依らない「トラスト」の確立

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#7

・アナリティクスの「産業化」

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#8

・技術の飛躍的進歩がもたらす社会へのインパクト

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#9

・（動画）Tech Trends 2016: Innovating in the Disital Era

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#10

６．2020 年までの IT ロードマップをとりまとめ　　2016.03.17　野村総研

～ビジネスや社会へ影響を及ぼす重要技術は、ディープラーニングによる人工知能の進展がカギとなる～

http://www.nri.com/jp/news/2016/160317_1.aspx

今回、重要技術として取り上げたのは、「人工知能（AI）」、「IoT（Internet of Things）」、「ウェアラブルコンピューティング」、「カスタマー・エクスペリエンス」、「API エコノミー」、「FinTech」、「リテール Tech」、「デジタル・マーケティング」の 8 つです。

７．産業競争力会議　第 40 回 実行実現点検会合　配布資料　　H28.3.31

テーマ：データ駆動型経済、未来投資、フィンテック

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou.html

資料１：小林主査提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou1.pdf

資料２：三木谷議員提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou2.pdf

資料３：上田祐司氏提出資料（一社シェアリングエコノミー協会代表理事）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou3.pdf

資料４：根来龍之氏提出資料

（早稲田大学ビジネススクール　ディレクター・教授）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou4.pdf

資料５：内閣官房 IT　総合戦略室提出資料（シェアリングエコノミー関係）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou5.pdf

資料６：経済産業省提出資料（シェアリングエコノミー関係）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou6.pdf

資料７：内閣官房 IT 総合戦略室提出資料（IT 原則への転換関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou7.pdf
資料８：内閣サイバーセキュリティセンター提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou8.pdf
資料９：経済産業省提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou9.pdf
資料１０：総務省提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou10.pdf
参考：第 27 回実行実現点検会合（平成 27 年 12 月 10 日）　小林主査提出資料
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/sankou1.pdf
資料１１：瀧俊雄氏（マネーフォワード 取締役 Fintech 研究所長）提出資料
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou11.pdf
資料１２：金融庁提出資料（FinTech 関連施策について）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou12.pdf
資料１３：経済産業省提出資料（Fintech(フィンテック)について）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou13.pdf
資料１４：経済産業省提出資料（クレジットカード産業におけるデータ利活用に向けて）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou14.pdf

８．サイバーセキュリティ戦略本部第 7 回会合（平成 28 年 3 月 31 日）
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/index.html
報道発表資料
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07cs_press.pdf
サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針
http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/jinzai_kyoka_hoshin.pdf
重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第３次行動計画の見直しに向けたロードマップ
http://www.nisc.go.jp/active/infra/pdf/ciip_roadmap2016.pdf
議事次第
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07gijishidai.pdf
資料１　サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針（案）
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou01.pdf
資料２　重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第３次行動計画の見直しに向けたロードマップ（案）　http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou02.pdf
資料３　2016 年「サイバーセキュリティ月間」結果報告
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou03.pdf

９．平成 27 年度製造基盤技術実態等調査　報告書　H28.3　日立製作所

（製造分野における IoT システムのセキュリティ対策に関する調査事業）
http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2016fy/000057.pdf
IoT 実装の有力な分野として検討が進められている製造分野を対象に、ハードウェア、ソフトウェア、データ、オペレータ等の IoT システムを構成する要素ごとに考えられるセキュリティリスクの洗い出しと具体的な対応策について、検討・整理する。

１０．AI の「人間超え」、その時トップ囲碁棋士は　2016 年 3 月 19 日
高尾紳路九段が見たシンギュラリティの風景　日経ビジネス Online
http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/110879/031600283/
年 3 月、世界トッププレイヤーの 1 人、韓国の李世ドル（イ・セドル）九段が五番勝負でグーグル傘下企業のディープマインドが開発した人工知能（AI）「アルファ碁」に敗れたというニュースが世界中を駆け巡った。チェス、将棋など人類の知性の象徴とされてきたゲームで次々に AI による「人間超え」が起きてきたが、「早くて 10 年後」とされてきた囲碁がここまで早く陥落することを予想する人はいなかった。　AI が人間を超える、シンギュラリティ（技術的特異点）。遅かれ早かれ、我々全員が直面する現実だ。正に今、囲碁棋士はその現実に向き合っている。そこには、どのような光景が広がっているのか。名人、本因坊など 14 回のタイトル獲得経験を持つ日本囲碁界のトップ棋士の 1 人、高尾紳路九段が緊急寄稿した。

１１．人工知能が囲碁トップ棋士に勝つ時代に考える　「知的職業」の未来
2016 年 3 月 16 日　DIAMOND Online　山崎元
http://diamond.jp/articles/-/87970
韓国出身で近年の囲碁世界チャンピオンだったイ・セドル九段が、グーグルの系列会社が作った AlphaGo というプログラムと戦って敗れた。5 番勝負で最初に 3 連敗したのだ。

１２．ロボットは「同僚」になれるのか　2016.3.17 日経ビジネス Online
工場、介護、保育、接客…24 年後の現場は？
http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/221102/031400189/
人口減と高齢化に歯止めがかからない日本。現在の経済活動を維持するには人手が足りなくなる。日経ビジネス 3 月 7 日号スペシャルリポート「自動化専門家が断言　移民よりまずはロボット」でも取り上げたが、2040 年には 586 万人分の労働力が不足すると予測されている。

１３．中国産業用ロボットの行方　2016.03.07　三井物産戦略研

http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d_r160307i_fujishiro.html

１４.「ユーザー企業のIT活用実態調査（2015年)」を実施　2016.03.16
～国内企業の「デジタル化」における課題は「組織の壁」～　野村総研
http://www.nri.com/jp/news/2016/160316_1.aspx

2015年12月に、国内企業におけるIT活用の実態を把握するためのアンケート調査を大手企業のCIO（最高情報責任者）またはそれに準じる役職者を対象に実施し、全業種にわたって501社から回答を得ました。NRIでは2003年から本調査を毎年行っており、今回で13回目となります。　今回の調査では、これまでのIT投資などの定点観測項目に、企業の「デジタル化」についての項目を新たに加えました。調査結果からは、国内企業が「デジタル化」を推進する上で必要としていることは、全社的な活用方針・活用戦略の策定、情報システム部門と事業部門とのコミュニケーションや協業の促進など、「組織の壁」を越える施策であることが明らかとなりました。

１５．情報通信業平成27年情報通信業基本調査報告書（平成26年度実績）
H28.3　総務省情報通信国際戦略局　経済産業省大臣官房調査統計グループ
http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/joho/result-2/h27/h27kakugaiyo.pdf

１６．総合科学技術・イノベーション会議　平成28年3月2日
システム基盤技術検討会（第4回）
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/haifu_system_04.html
サイバーセキュリティの取組について
ＡＩＰの取組について
標準化の取組について
共通基盤について
資料1　前回までの有識者ご意見抜粋
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo1.pdf
資料2　「安全なＩｏＴシステムの創出」
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-1.pdf
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-2.pdf
資料3　「人工知能ビッグデータ IoT サイバーセキュリティ
統合プロジェクトに関する文部科学省の取組状況について」
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo3.pdf
資料4　「社会システムの国際標準化について」
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-1.pdf

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-2.pdf
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-3.pdf
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-4.pdf

資料5-1　ユースケースを通じた共通基盤の議論について

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-1.pdf

資料5-2　ユースケースの共通基盤項目検討結果一覧

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-2.pdf

資料5-3　有識者からのユースケース集計結果（提案価値を基準に再集計）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-3.pdf

資料6　システム基盤技術検討会論点整理（案）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo6.pdf

資料7　今後の予定

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo7.pdf

参考資料1　システム基盤技術検討会（第３回）議事録（案）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/sanko1.pdf